

令和 5 年度 園評価書

園番号18 園名 下川原こども園

I 経営の重点に関わること 評価段階 (A : よくできている B : 概ねできている、C : あまりできていない、D : できていない)

1 教育・保育目標	2 重点目標	評価指標	園説明	自己評価	関係者評価	園関係者評価委員会から	改善策 (来年度の具体的な取組目標等)
笑顔あふれる 元気な子	重点目標 「好きをいっぱい みつけよう」	様々なことに興味をもち、好きな遊びを見つけてじっくり遊んでいる	好きな友達や保育者と、好きな場所で自分の「好き」を見つけて遊ぶ姿が増えた。しかし落ち着きがなく集中せずに遊びが転々とする子もいたが、そのような子も保育者がねらいをもって用意した環境に興味をもち遊ぶ姿もある	B	A	・「集中せずに集中出来ない」ということを気にされていたが、遊びという自由な環境でのことなので、マイナスに捉えるのではなく、やりたいことがいっぱいあるという捉えでいいのではないかと思う	・一つの遊びに集中せず、遊びが点々としてしまうことで、片付けの話になった時に、物を大切にするという事も伝えながら考えていきたい
		自分の思いに気づき、感動などその子なりの方法で表現し、友だちや保育者に共有しようとしている	感じたことや思いを、友達や保育者に伝えようとする姿が増えた。また上手に言葉に出来ず、泣いて言えなくなる子もいたが、身振り手振りで自分なりに表現をしている姿が多くなった	B	B	・園庭の築山がなくなったことで、園庭の広さが確保され、子ども達の動きが縦、横、斜めと大きくなり、子ども達の歓声や先生たちも楽しそうに遊んでいると感じた	・自分の思いを大切にし、相手の思いにも気付けるように、じっくりと話が聞ける関係を築いていきたい
		子どもたちが工夫したり、試したりできる素材、教材が用意され環境が整えられている	研修や公開保育で学んだことが活かされ、園児それぞれ(年齢など)に合った素材・教材を用意できた。また季節の自然物を遊びや製作に取り入れたり、子どもたちがやってみたくと思った時にすぐにやれるような環境を整えることができた	B	A	・手作り玩具であったり、異年齢の活動が多く、子どもが目キラキラさせて、「～した!」と話すことが多い。いろいろな経験をさせてもらい、子ども達が自ら考えて、自分から動く姿が増えた	・子どもの遊び環境が整えられていることで、遊びが続いたり、広がったりしていくように、引き続き、話し合いを中心に教材研究・遊び環境を考えていく

II 各領域に関わること

大項目	中項目	評価指標			関係者評価		
1 こども園における教育及び保育	(1)0歳から小学校就学前までの一貫した教育及び保育	学年目標に向けて教育・保育を行っている	自分の学年だけでなく、公開保育を通し、その学年・クラスの育ちのおさえをしてきた。園内の職員みんな子どもを見守ることを大切に、クラス間での情報共有を大切に、日々、伝え合い、相談しながら保育を行ってきた。	B	B	・家庭で我が子が次々と玩具を出して遊ぶ様子が見られた際には「それ、片付けてから!」と言えるが、園では一緒に使っている子がいたり、他の子が次に使ったりと、最終的に片付けをすることが出来れば良いと思うが、難しさもあるのだと感じた	・園内研修、公開保育の中で、各年齢の発達のおさえをしていく。また、全職員で周知できるように、数回に分けて園内研修の報告、発達の抑えを行っていく
	(2)一日の生活の連続性及びリズムの多様性への配慮	一人一人の育ちや生活リズムを大切に、安定した気持ちで園生活が送れるようにしている	休み明けの情報の伝達や、体調に関することなど、朝の受け入れの際、担任以外の職員が開き取ったことを、確実に伝え合うよう努めてきた。アレルギー児も多く、個別の弁当の取り扱いなどにも、間違いないよう慎重に行ってきた。	A	A	・片付けの話から思うことは、まずは家庭からと考える。保護者も多種多様で、こちらの意図することを違う取り方をする場合もあり、伝達の難しさもあるが、家庭の教育力も高めたい	・職員同士の情報共有をしっかりと行い、一人一人の子どもの様子や変化に気を付けていく。一人一人が、心が通う心地よさを感じ、安心して過ごせるようにしていく
	(3)環境を通して行う教育及び保育	子ども達の興味・関心に合わせた素材や教材を考え、環境づくりをする	週1回の園庭会議を重ね、継続することで、職員の遊び環境に対する意識の向上につながった。築山をなくしたことで、新たにロープを張り、全身を使った遊びを取り入れたが、進めていく中で、更に安全面を考慮した形に変化させたり、ルールを見直したりしてきた。	B	A	・この時期にしか経験出来ないことや実体験の大切さということをおまえ、環境を通した教育保育、本物にふれる機会を大切にしていきたい。その為の自然環境や素材など、子どもの興味関心に合わせたこと・物を用意していく	・想定外の大震災に備えた訓練を重ねていく。また、ヒヤリハットを出し合い、日頃から危機管理を意識出来るようにしていく
2 安全管理・指導	(1)事故防止・防災	様々な想定の実施し、避難の仕方を考えている	不審者対応については職員会議で合言葉や避難の仕方を再確認した。今年度は実際に大雨洪水警報レベル4が発令し、急休休園することになったが、日頃の突発の訓練の成果が出て、慌てずに対応することができた	A	A	・家庭の教育力に関して、小学校も同じである。家庭の教育力が高まることによって、子どもが好きになったり、子どものよさに気付いたりして大事に育てようと思うことにつながる	・免疫力の低下が著しく、時期を問わない感染症の流行が見られる為、手洗い・うがいの励行、保護者に対しても感染症状況を知らせるだけでなく、取り組みを知らせていく
3 保健管理・指導	(1)健康教育の充実	感染症対策を含めた保健指導を行い、健康な生活を送れるようにする	感染症情報が入る度に玄関の感染症ボードを更新し、正しく伝えるよう努め、子どもの体調の変化にも気を付けてきた。使用した玩具や蛇口、ドアの取っ手など、消毒を行って気を付けているが、咳などの飛沫感染で感染症の流行を防ぎきれない部分もあった。	B	A	・ユニバーサルデザインの観点から、廊下などで余分な物を置かないことで広いスペースが出来る。広いと気持ちもすっきりする為、空間的な広がり大切にしたいと思う	・今年度、パンダの会、ピーチサロンの様子をおたよりでも知らせ、参加出来なかった保護者にもアピールしてきた。支援の必要な園児の保護者に一人でも多く参加してもらい、園での取り組みを理解してもらうようにする
4 特別支援教育・保育	(1)支援体制づくりの推進	関係機関と連携をとりながら、職員間で情報共有し、子ども一人一人にあった支援をしていく	ばんだの会の実施後、会の様子を写真を載せたばんだだよりとしてすぐに発行し、活動や子どもの様子を保護者に伝えている。ピーチサロンでは、卒園児の保護者の話しを聞く機会を作ったり、子どもと一緒にさくらんぼリズムや製作をしながら保護者同士が交流できる場を作ったりしていった。療育施設と連携をとり合い、支援の必要な園児と家庭を支えている。	A	A	・能登半島の地震があったことで、想定外のことがあるということを、頭の隅に置かなければいけないと感じる。いざという時には、園に地域の人が押し寄せてくることも考えられる。いろいろな訓練が行われているということを知ると安心する	・今年度の課題を生かしながら、一つ一つの行事の在り方を分掌を中心にやっていく
5 組織運営	(1)組織体制の充実	全職員が自分の分掌や役割に責任を持ち、協力して運営を進める	各々の分掌担当が協力して進める中で、図書の係は移動図書「ぶっくる」を手配して、バスの中から見たい絵本を自由に手にとり、絵本を楽しむ一日を設けたり、行事の担当職員がそれぞれに持っているクリスマスの絵本を集め、子ども達にクリスマスやサンタクロースのお話、より多くふれる機会を作ったりした。会議に出ない短時間の職員などにも分掌の担当で協力してもらうために、どのように巻き込んでいくかという点が課題である。また常にいろいろなことが起こる中での情報共有には、ゆっくり時間が取れない中で、いかに伝達していくか工夫が必要である。	B	A	・療育施設との連携が出来ているということを知って安心した。主任児童委員として紹介している療育施設とのやりとりも苦労している中で、先生方が日常の仕事にプラスして連携をとってくれていること、日々大変な思いをされているのだと感じた	・それぞれの職員の得意分野や知識を出し合えるようプロジェクトとして取り組んでいく
6 研修	(1)研修体制の充実	毎週の園庭会議で遊びの環境を検討し、子どもたちの「好き」が見つけられるように考えている	遊び環境について話し合ってきたが、解釈の違いや会議に参加していない職員への伝達や意見を取り入れることが難しかった。その為、プロジェクトをいくつか作り、職員が参加出来るように改善している。公開保育も参加出来なかった職員とも共通認識出来るように、ビデオを撮り、その日の様子をみて意見をもらったり、園の課題や改善点を口頭にて伝えたりしている。子どもたちは好きをたくさん見つけられたと感じているので今後は、好きを広げたり深めたりできるように年齢(発達)に合わせた環境の再構成が課題である	B	B	・近隣園や学校との交流が見られ、コロナが明けて、本当の意味で自由になれてよかったと思う	・子ども達が好きなことを「またやりたい」「もっとやりたい」と思えるように、広がりや継続出来るような支援・援助を考えていく。その為に、イメージ出来るような経験やいろいろな経験を重ねることを大切にしていきたい
7 教育・保育環境整備	(1)教育・保育環境の充実	子どもたちが自分から遊び出したり、片付けたりできるように環境をつくっている	時期や遊びの様子を考えながら、使用しない玩具は倉庫に片付けたり、子どもが使いたい物を、自分で取り出しやすいような場所に置いたりして環境を整えてきたことにより「～していい?」の言葉が減ってきたように感じる	B	A	・家庭の教育力を高めるために、どんな方法があるのか考えていきたい	・取り出し易さ、しまし易さを考え、片付け易さについても取り組んでいく
8 家庭との連携・協力	(1)家庭教育への支援機能の充実	子どもの姿を保護者にわかり易く伝え、一緒に考えたり、成長を喜び合ったりする	ドキュメンテーションにしてクラス一人ひとりの様子を写真を入れたコメントにすることによってあそびの様子はよりわかりやすく伝えられた。生活面や成長については、参加会や個人面談、日々の送迎時に個別に伝え保護者の悩みにも傾聴し子どもの成長を共に見守っている	A	A	・具体的に家庭に伝えたり、保護者を巻き込んで行える取り組みを考えていく	・今年度、小学校や近隣園との交流が出来たことで、引き続き続けていけるよう連絡を取り合い、計画していきたい。また、小中学校に秋の実を取りに行かせてもらうなど、新たな計画もしていきたい
9 近隣の学校との連携	(1)近隣の園との連携の推進	近隣の園や近隣の学校と交流している	年長児は、今年度初の試みで長田地区の年長児交流をはじめ、小学校のご厚意で1年生のお店やさんごっこに招待いただき、1年生との交流の第一歩を踏み出した。また、正規職員だけでなく会計年度職員も近隣園の公開保育に出掛け、他園の良さを知り、自園の保育に取り入れたり、情報交換することが出来た。	B	A	・地域のために働く方々に関わる機会を大切に、園の行事に協力頂けるようお願いしたり、子どもたちがおしゃべりサロンでうたや手遊びを披露し喜んでもらう機会を作っていく	
10 地域との連携	(1)信頼される園づくりの推進	ふれあいサロンやおしゃべりサロンに参加し、地域の方々や交流を持ち、親しまれる園づくりに努めている	勤労感謝の訪問では、地域の為に仕事を頑張っている方々に、手作りカレンダーを届け、感謝の気持ちを伝えたことで、喜んで受け取ってもらえ、子ども達も嬉しそうだった。おしゃべりサロンには、たくさんの方に来て頂き、未就園児の方向士が友達になれるきっかけにもなった。未就園児に関しては、緊急一時保育の受け入れにも努め、出来るだけ対応出来るようにした。	A	A		